

3つの物語

STORY OF HISTORY

～藤岡歴史人物ストーリー～



藤岡には、歴史に名を残した多くの偉人がいます。

ここでは、算聖と呼ばれる関孝和、桜山公園を造った飯塚志賀、アニメ映画の公開で、一躍時の人となった堀越二郎をピックアップ。時代もジャンルも異なる3人を3つの物語にして紹介します。

飯塚志賀物語

「冬桜の咲く「桜山公園」の創設者」

桜山公園第3の広場近くに、冬桜を背にして立つ、和服姿の銅像があります。美髯で知られ、「三波川將軍」の愛称で慕われた、元三波川村長の飯塚志賀。冬桜の咲く桜山公園の創設者です。志賀は安政6年（1859）生まれ。明治22年（1889）2月、父の後を継ぎ戸長となり、同年8月三波川村長に就任。以後、村長として35年間、地方自治と公共のために尽力しました。

桜山公園は、春は桜を、秋は紅葉を楽しめる村民の憩いの場をつくろうという志賀の思いから始まったものです。明治41年（1908）、国有地であった山林原野を買い取り、1000本のソ



大正4年に撮影、志賀と三波川村の有志

メイヨシノと、村民各戸で持ち寄った310本のカエデを植栽しました。植え付けは、村民総出で参加。山頂を含めた約5haの地は、村民の手で整備されました。村民による植え付けから3〜4年経った11月、突然3割ほどの桜が開花しました。購入した苗はソメイヨシノで、冬に咲く桜があることを知らなかった村民の驚きは大変なものだったといえます。



頌徳碑の除幕式と宴会場

大正12年（1923）、志賀は病に倒れ、この世を去りました。それから2年経った同14年（1925）12月1日、村民が一戸1人以上参加した花見の宴が開かれました。初の桜山まつりです。以後、毎年12月1日に桜山まつりが開かれています。志賀の銅像は、冬桜を愛でる人々を見守るかのようたたずんでいます。



桜山の中腹に建つ銅像

関孝和物語

「世界の三大数学者といわれた和算家」

上毛かるたで「和算の大家関孝和」と詠われる関孝和は、江戸時代に活躍した和算家（数学者）です。和算とは、文字や記号を使って計算する、日本独自の数学のことです。孝和は、独自の記号法（傍書法）を開発。自由自在に数式を表現し、算木を使って高次方程式を解く天元術に改良を加えた点竄術を発明しました。この発明は和算の発展に大きく貢献しました。

孝和は、江戸時代の初めに藤岡の武士の家に生まれた（江戸小石川生誕説もあり）といわれています。6人兄弟の二男で、10歳のとき、両親がなくなり、関家の養子となりました。30歳のころから、甲府の徳川綱重、綱豊に仕え、勘定所の事務一切を検査す



光徳寺にある分骨墓（右）市民ホール前に建つ算聖之碑（上）



二男で、10歳のとき、両親がなくなり、関家の養子となりました。30歳のころから、甲府の徳川綱重、綱豊に仕え、勘定所の事務一切を検査す

る勘定吟味役を務めました。その後、主君の綱豊が六代將軍・家宣になったのを機に、江戸幕府に仕えました。数学の研究に生涯をかけた孝和は、宝永5年（1708）10月24日、江戸で亡くなりました。円周率や球の体積の計算方法を導き出した孝和の業績は、後進の和算家に大きな影響をもたらし、自らを「関流」と称する和算家が数多く生まれました。市内の光徳寺には、孝和のお墓があります。没後250年祭の昭和33年に孝和の御霊を迎えて築かれたものです。また、「関孝和先生顕彰全日本珠算競技大会」など、孝和を顕彰する行事が行われています。



関孝和先生顕彰全日本珠算競技大会

堀越二郎物語

「零戦」を設計した航空工学者

アニメーション映画「風立ちぬ」の主人公のモデルになった航空工学者・堀越二郎は、明治36年6月、藤岡市上落合で生まれました。寺子屋を開き勉強を教えていた祖父の影響を受け、勉学に励む少年だったといえます。藤岡中学校に入學してからは、成績は抜群で、卒業より1年早く、第一高等学校に合格、その後、東京帝国大学（東京大学）に進みました。

大学で航空学を学んだ二郎は、昭和2年、三菱内燃機株式会社（三菱重工業）に入社。同4年には、欧米に航空機の研究に派遣され、入社5年目の29歳のとき、七試艦上戦闘機の設計を担当しました。



九試単座戦闘機

のにしたのは、昭和9年に設計した九試単座戦闘機（九六式艦上戦闘機）の成功でした。抜群の操縦安定性を誇り、海軍の主力戦闘機となりました。日中戦争が始まった昭和12年10月、二郎は戦闘機の開発要請を受けました。条件は、「長い航続力」「時速500km以上の高速」「素早い上昇力」「強力な機銃装備」。これまでの常識を超える戦闘機の設計でした。二郎は主任設計技師として若手28人で編成した精鋭チームを引っ張り、いくつもの難題を乗り越え、昭和15年7月に「零式艦上戦闘機（通称・零戦）」の設計に成功しました。太平洋戦争では、アメリカ軍から恐怖のゼロ・ファイターと恐れられ、日本人の飛行機として今でも語り継がれています。



戦後は、国産初の旅客機となった「YS-11」の基本設計に携わりました。



零式艦上戦闘機（零戦）